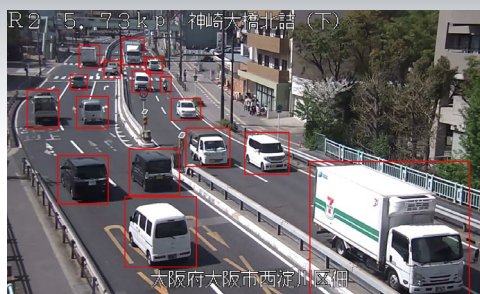


交通流のデジタル・センシング・ネットワークを拡大

近畿地方整備局が管理する国道では、平常時、災害時を問わず、交通の円滑性や安全性を更に向上させていくために、交通流の人力による断片的な計測からデジタル技術による常時・連続的な計測へと転換しています。これらの取得したビッグデータを活用して、地域の交通課題を可視化し、ピンポイントで効果的な対策を講じることが可能となります。デジタル技術を用いたセンシング機器として、交通量や車両の動態データを計測するための「CCTVカメラ」、速度や急加減速、経路データを計測するための「ITSスポット」等の整備を進めています。

CCTVカメラ

交通量・車両動態データ



整備済(R5.3)：1314箇所
R5年度整備予定：53箇所

CCTV計測カバー率※ (R4.6現在 近畿地整管内)

高規格道路
(232.5km)

69% (161km・409箇所) AI搭載率12.7%

雪寒地域の
直轄国道
(536.5km)

53% (287km・455箇所) AI搭載率29.9%

その他の
直轄国道
(1220.5km)

37% (457km・505箇所) AI搭載率11.3%

※CCTV計測カバー率：設置したCCTVカメラで見通すことができる道路の延長/道路延長 (参考)CCTV 1台あたり平均約700mの道路延長を監視

ITSスポット

速度・急加減速・経路データ



整備済(R5.3)：234箇所 R5年度整備予定：2箇所

ITSスポット計測カバー率※ (R5.3現在 近畿地整管内)

直轄国道
(1926.5km)

96% (1856km・234箇所)

※ITSスポット計測カバー率：ITSスポットを標準的な設置間隔で設置済の延長/道路延長 (参考)標準的な設置間隔は、高規格道路で概ね30km間隔、その他の直轄国道で概ね10km(市街地部)~20km(その他)間隔